

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

12月号(NO15)通巻165号

2019年12月10日(火)発行(毎月10日)

【農暦】マルチ掛けをして玉葱、空豆、莢えんどうの苗を植え込んだ!

○本格的な寒さが来ている。雪の予報もあったが雪混りの雨が降る。7日は旧暦の大雪であった。真冬の気候である。今年の最初の忘年会が7日にあった。お酒の後は身体が寒さを感じ易くなると云うがお酒を飲む前から寒かった。熱燗をグイッと飲みたい。そんな映像が浮かぶ。そんな寒さである。最近では酒席も少ない。

○心が寒くなる、殺人事件のニュースが多い。虐待など家族内の事件は怖い寂しい。社会が壊れかけているのではないかと思う。あふれる商品に混雑する人びとが、籠一杯の食料品などを山にしてレジの列に並ぶ。7人に1人の子どもが貧困状態にある云う。まともに食料品を買えない人の存在を思うと複雑な気持ちになる。

○桜を見る会でホテル、庭園で贅?を楽しんでいる姿は、貧しく慎ましい生活をしている人にはどのように見えるか想像して欲しいものである。桜を見る会に使われた税金の一部が子供食堂に回ったらとの記事を読んで、経世済民の“済民”は死語になってしまったと思った。違法以前問題がある。

○日照時間が極端に少ないと少し前のニュースで聞いた。曇りと雨が多い、晴れた日は少ない2拠点の生活は意外と大変である。イベントや会活動と農作業との気象の相性が悪いと何もできない。雨が止んでも泥濘(ぬかるみ)の中では農作業は出来ない。そうかと思っても農作業だけでは寂しい。晴耕雨読とは程遠い生活をしている。

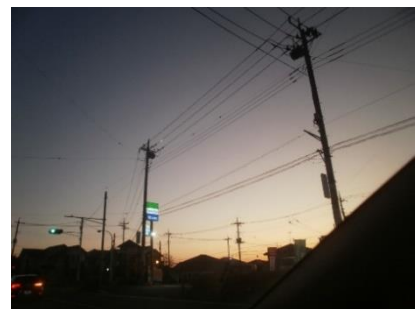
○大根が立派に育ち、白菜も収穫が期待出来そうである。玉葱を300本植えた。カラスかキジか判らないが20-30本抜かれていた。キュウイが鳥に食べられていた。鳥の取り分もありかなと思いながら少し収穫した。草が枯れ畑の景色が変わった。リセットされた感じである。伸びた枝の剪定や畑の整備を、この冬の間の早い時期にやりたいと思っている。僅かな晴れ日を使い、マルチ掛けをして空豆、莢えんどう、スナックエンドウを植え込んだ。(了)

【楽農】<畑>黒豆、大根、ネギ、キュウイなど少量収穫

*玉葱、スナック、莢えんどう、空豆の植込み。

【楽市】イベント交流・直売など。

○イベントなど;落語とアルパの会(14日)荒牧地区草刈り(16日)、詩吟例会(21・28日)笠吟連会長会(30日)共生の会(5日)川柳の会(5日)山野草の会忘年会(7日)に参加など。



<夕焼け>富士山のシルエットが? 柏への道で30日撮影



<黒豆>2kg以下の少量だ。雨で品質も。3日撮影

【つぶやき=Tweet】日本は化石賞をCOP25マドリードで！

○アフガニスタンで医療や灌漑（かんがい）事業などの人道支援に取り組む非政府組織（NGO）「ペシャワール会」（福岡市）のことは、中村哲医師への銃撃のニュースに因って広く知られることになった。私もその1人である。友人のブログで「ペシャワール会」の日本での活動のことを始めて知った。力は無いが、少しでも良い世界に、社会にと思っている。ダメな政治を嘆いている私が恥ずかしくなる。

○アフガニスタンの人たちからは、中村哲医師は好きだが、日本は嫌いだと言われそうである。中村哲医師への気持ちが日本と相当の温度差を感じる。棺を担ぐ大統領の姿と日本空港で棺を迎えるニュースの映像が余りにも差が大きい。日本の政治家の姿はない。在日アフガニスタン人と少し日本の関係者の姿だけに見えた。国際貢献では緒方貞子さんも居られた。ベトナム戦争の頃で大分昔になるが、アメリカ人は好きだがアメリカ合衆国は嫌いだと、よく話していたことが思い出された。今のアメリカも同じで似たものを感じる。トランプ（パリ離脱宣言の）がダメならに州で、企業、個人取り組み活動のことをニュースで聴くと、同じだと思う。



＜アルパを聴く会＞落語とジ
ェンダー川柳も14日撮影

○世界唯一の被爆国日本が核兵器禁止条約を米国に遠慮し？批准しない。理屈を言っても嫌韓外交に見える日本の外交である。温暖化対策はサウジアラビアに次に悪い国、皮肉込めた有り難くない「化石賞」をCOP25マドリードで頂いている。米国第一（支持者第一）主義のトランプに寄り添い、世界を俯瞰する外交と称し、75回外遊し、延べ150か国以上（今はもっと増えている）を巡った安倍首相。「スタンプラリー外交」という批判する人もいる。国民の社会保障費が削られる中で巨額のお金が使われている。貧困家庭のことを思うと怒りを覚える。諸外国からは、援助は欲しいが日本の評価は別のように聞こえて来る。地球を俯瞰する外交は、映画「独裁者」でチャップリン扮するの地球儀を俯瞰するヒットラーの映像と重なって見えて来る。

○7040 問題から 8050 問題になるという。老い先を心細く思っている老人は多い。私も間違いなくその1人である。心配事のない人でも身体の衰えは重いものがある。娘からお父さん暗くなったねと言われる。あれやこれを考えると明るくはなれない。文部大臣が言う“身の丈”を踏み外したとは思わないが、不安ばかり募る。一休さん頼りで“なるようにしかならない”を座右の銘に。最近では“人生はいつだって「予想外」”もある。年末ジャンボを今年も買いたいと思う（了）

○断捨離考：資料などと整理少しだけ。遅々として進まず、少し危険を感じてる。

【後記】寒さ畑をリセット。霜柱が！Kogure 農場に。【特に編集せずランダム構成】

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com